

竹富島調査研究報告レジュメ

教育学部 生涯教育課程
島嶼文化教育コース 3年次
002932H 安次嶺美幸

テーマ：竹富島の観光の実状（光と影）と島のこれから

テーマ設定の理由

竹富島など、南の島々の観光地は、その地理的条件のもと美しい自然景観や、情緒的な空間の中の安らぎがそこには健在し、観光客をひきつけるものだと思う。しかし、島が観光地化した現在、観光産業で得た利益も大きい一方で、島の様子も観光産業の影響で大きく変わったのではないかと考える。そこで島民に島に対して抱く想いを聞き、それぞれが抱える現状を調査し、これからの島の在るべき姿を考えてみたい。島は現在観光産業の盛んな島になった。観光地化した過程で、島の未来に光も与えていると思うが、交通・日帰り観光・町並み保全などの観光化した竹富島の新たな問題（影）をはらんでいると考えるし、そこには、島民の島に対する意識の問題も関わってくる。島の観光化が、島の真の振興として、根付くものとなるように島のあり方・島民のあり方を考えていきたい。特に子ども達は、実際に観光産業に携わっているわけではないので、島が観光地化するまでの経緯と現状認識が薄いと考える。そこで、子ども達それぞれが島の観光産業の実状を把握したうえで、さらにより良い観光地「竹富島」を作りあげてもらいたい、と考え観光をテーマに調査を進めて行きたいと思う。社会科の地域教材としては、観光産業の実態（人的）と実状を学び、竹富島の島民の一員であることを再認識させ、児童らが島の魅了を探り、新しい竹富島の観光コースを考える、という作業を通し、児童に竹富島の島民であるという誇りを身に付けてもらいたいと考え、今回のテーマ設定とした。

項目 観光 観光地化した竹富島の実状（光の影）と島のこれからとは？

竹富島の観光スタイルの定番とは？

竹富島と西表島東部は 90 年代を通して観光客数が右肩上がりであり、かつ冬場に大きなピークを迎えるのに対し、西表島西部と小浜島は 90 年代を通して観光客数が横ばいに近く、また冬場のピークも顕著ではない。このように分かれるのは、近年のパックツアーの流行が影響していると考えられる。なぜなら、そうしたツアーでは、一日にいくつかの島を巡る周遊ツアーが人気であり、竹富島と西表島東部は港から短時間で重要な観光スポットを廻ることができ、ツアーのコースに組み入れられやすいからである。また、夏期より冬期にこうしたツアーが盛んである。また、竹富島の夏期・冬期では観光

客の客層にも大きく変化が見られる。夏期は学生や家族ずれ、などの一般的に若い客層が目立ち、民宿などの利用率が高いそうで、逆に冬期の暖かい気温を生かした観光では、高齢層や社員旅行などの団体の有償バスの利用率が高い。そしてここ最近でいえる事は、航空関係の早割り・超割りなどのシーズンオフの時をねらった観光客も多く、一年を通して観光客が多く訪れるようになったとのこと。ということは、観光事業に従事している方々は今では、一年を通して忙しく、観光に関わっている島民数がほとんどであるとはいえ、一年間の延べの観光客数である 263,454 人をこの小さな島の島民でこなしているという状態である。

観光関係事業

- ・ 民宿・旅館 10 軒
- ・ お土産店 6 軒
- ・ 食堂・喫茶 6 軒
- ・ 水牛車観光 2 軒
- ・ レンタサイクル 5 軒 (316 台)
- ・ レンタバイク 5 軒 (30 台)
- ・ バス 竹富交通

現状：観光化した竹富島の影の部分とは？

観光事業でイニシアティブを握れない島民

現状* 竹富島が観光客で最も賑わうのは冬場である。北海道・東北地方を中心に、避寒のために沖縄離島を巡るパックスツアーが人気を博しており、そのツアーメニューのなかで竹富島を訪れる人が大勢いる。年齢別では、冬期は男女とも、50 代以上の高年代の割合が高くなっている。

島で観光事業に関わっている人々は、観光シーズンに客が集中する問題を揃って口にする。あまりに短時間に大量の観光客をもてなすことが要求されるので、トラブルが生じているとのことだ。しかし、この苦情も、現状では仕方ないことなのかもしれない。なぜなら、年間の観光客入域数 263,454 をとって考えた場合に、手が回らないということができてもおかしくないからである。

実際の観光客から少なくない苦情

時間に急かされてゆっくりと見て回ることができない。

トイレに行く時間さえもない。

ガイドの言葉遣いが乱暴。

バスに置いて行かれた。

などなど。

こうした問題の根源は、石垣島からの離島航路が整備されたことにより、宿泊客が激減して、今のような日帰り観光地となったことにある。

1日に竹富島と西表島、由布島を巡る3島コース(小浜島を含めて4島コースもある)が主流なので、時間をかけて竹富島を案内できないことにある。船が遅れて島に到着しても、決められた出発時刻には桟橋まで送り届けなければならない。観光客は、到着して出発するまでの短時間に、グラスボート、水牛車、バスを次から次へと乗りこなす。あまりに盛りだくさんのメニューであるため、自分がどこの島にいるのかもわからず、竹富島で水牛車に乗って、由布島に居ると思ってしまう客もいるようだ。このように1日にいくつもの島を訪ね、各島でいくつもの観光スポットを巡るパックスツアーが、冬場の八重山観光のスタンダードとなっている。1日に訪れる島の数が多いほど、巡る観光スポットがたくさんあるほど、ますます人気が高くなるらしく、そうした傾向はとどまるところを知らない。最近の八重山を訪れる観光客の数は増加する一方だ。たしかに観光客は増えている。しかし、島の人々はすでに現行の観光に限界を感じている。有償バスは夏場一日あたり500人、冬場なら1000人の観光客の対応に追われている。このように招かれざる客が大挙して押し寄せてくる背景には、竹富島の観光事業のイニシアティブを島外のエージェントに握られていることがある。このため、島の人々はエージェントに対してなかなか不満をぶつけることができない。島外のエージェントと島の観光業者との動かしがたい力関係が崩れない限り、問題は解消されないだろう。

そこで最近、竹富島の人々は、エージェントに対抗するための前段階として、自助努力で解決できる問題に意欲的に取り組んでいる。その一例が、現在工事が進められている環状道路の建設である。

現行の観光事業の問題点

観光客への十分な対応ができないこと。

島民の居住環境の悪化が挙げられる。

集落に有償バスが頻繁に往来するようになって、集落を縦横に走っている白砂の道路が削られ、雨が降ると凸凹になったり、風が吹くと砂ぼこりが舞ったりするようになったりした。あるいは歩行者の安全な通行が妨げられるようになったこと。

そこで、

交通：観光における有償バスの交通整備は、島の景観保護にどのように影響を与えているか？

調査項目に対する調査研究結果

・島には「竹富交通」という有償バス事業を行なっている人々による事業所がある。現在、社員は18名で、ほかに2名の事務員を雇っている。社員は出来るだけ島に貢献できる人を採用するというのが望ましいということ。

島に貢献する人であって欲しいというのが望ましいという条件が島・島民のアイデンティティだと感じる。それは、島の文化を含めた島の将来を守っていくためでもあり、島に住んで島を十分に理解した上で、有償バス事業を運営していこうということにあるそうだ。

・提供しているサービスは、港と集落を結ぶ路線バス、それと島内観光である。路線バス事業は、当番制で1人が担当する。当番以外はみな島内観光を行なう。路線バスの収入は、100%組合員が得ることができるのに対し、島内観光は2%を会社の運営費に納める義務がある。

・島内観光の場合、1時間半から2時間をかけて、赤瓦の町並み、コンドイ浜、ピジターセンター、民芸館などを回るのが標準コースで、料金は乗合1,000円、貸切6,000円となっている。有償バスを利用する観光客は、9割くらいがクーポン券で処理する。つまり、利用者のほとんどは、旅行代理店の企画によるツアーで来島する人々である。

島の観光産業として成り立っていない部分があり、島の振興に実際つながっているのか？

・この有償バスとして、現在ではマイクロバスが運行しているが、昔はトラックの荷台にベンチシートを敷き、そこに観光客を座らせて観光案内を行っていたそうだ。しかし、1965年頃から、旅客運送業としての基準を満たすように指導され、次第に変化してきた。バスの台数は、1980年頃は7~8台だったが、1990年頃までに5台増え、さらにそれから5台増えて現在の数になっている。

・有償バス事業は、町並み保存運動と対立する部分がある。バスが町並みを往来すると、集落景観を構成している白砂の道が凸凹になる。この問題を解消するために、集落の外側に環状道路をつくることになり、すでに一部供用されている。

町並み保存会の意見

・有償バスでの移動には環状道路を利用し、観光客が集落に入るときには、原則としてバスから降りて歩くようにすれば、集落内の道路の崩壊を防止できる。

バス組合の意見

- ・外周道路を作っても、バスが集落を回らないわけにはいかないのではないか。
- ・冬場の観光客の8割はシルバー層であることを考慮すれば、狭いとはいえ集落内を歩いて見学することは難しいだろう。
- ・バスを降りて集落を歩く人が増えると、集落に住む個人のプライバシーがますます侵害されるという問題も生じかねない。

こうした問題への対応策

集落を囲むようにぐるり一周する環状道路を設け、集落内への有償バスの進入を出来るだけ避けるようにする。

現状と方向性

集落高齢者や障害者など、集落内を歩いて見て回ることが困難な交通弱者はどうかなど、まだ細部を詰めなければならないようだが、現状の問題点を克服するための一歩を踏み出している。内へのバスの進入にかんしては、

全くバスをいれない。

一部を舗装し、そこだけバスを入れる。

バスを入れないゾーンを設定する。

という3つの方向で検討されている。

町並み保存を最上位課題にすれば、 を採用することになるだろうが、組合の言い分にも妥当性があり、現在、島内で協議して方向性を定めることになっている。(参考文献)

島民の関わり方

この環状道路の計画にあたり、線形、道路構造、修景に至るまで、島の人々が積極的に関与し、納得するまで議論して決めたことである。ここに認められるのは、受身の観光から脱皮しようという前向きな姿勢である。そこに創意工夫が現れており、新たに伝統を創りあげる可能性が秘められているように思う。そして、島の人々が可能な限りの知恵を絞る過程を通じて、内地のエージェントに対抗しうる力が備えられていくものと期待できる。また、竹富島の観光地化した現在、島のごみ問題も挙げられている。もともとの島にはごみを出す習慣はなく、今のように洗剤を使わない生活からはごみのない生活が当たり前であった。しかし、ペットボトル・空き缶・生ごみなど各自で処理しきれなくなったごみ、また海の漂着物として流れついたハップースチールなどの島では処理できないさまざまなごみを現在では、有料個別収集という形で各世帯から世帯として・個人としてのごみ収集金を集めて処理しているとのこと。その有料制も観光のまちである竹富島であるだけに、民宿・レンタサイクル・水牛車などの観光業もそのごみがでる量に応じて料金徴収が異なる。そうしたところから出るごみは、観光客の残していったごみとなるのだが、この調査を通してあげられている意見の多くは観光客のごみが集落の石垣の上のそのままに放置されていたり、民宿では分別ごみとして分けなくてはいけないのに、観光客がタバコの吸殻入れにして困る。特に日帰り観光の観光客はお金を落としてはいいかないが、ごみだけ落としていくと、ある民宿の方が話してくれた。つまり観光客のごみのマナーが守られていないことである。確かにこの島は町並みを観光の目玉にして、さまざまな産業が経済基盤として成り立っているが、そこには人々の生活があり、観光客の見せ物ではないし、テーマパークでもない。島の人々はそこを観光で訪れる人々に理解してほしいと強く願っている。そしてこの島の町並みを含めた伝統文化・人柄・自然にもっと関心を持ってほしいと感じているようだ。現在、日帰り観光が盛んに行われていることに対する不満は、経済的効果の減少だけではなく、短時間では竹富島の良さはわからない、

という観光地としての在り方についての島民の島に対しての想いを感じることができたし、島の人々は島に対しての誇りを強く持っているし、島を心から愛していること確かな証拠であると思う。だからこそ、この竹富島が観光地としてあり続けるためには、島を愛する心を持った人で観光を担っていく・島の将来を考えていくことが島のこれからの在り方を考えるためにも重要であると考え、大切な意味をなすのだと思う。それがここでは観光ではあるが、島のアイデンティティを自らの手で主体的につくりあげていこうと住民がいろんな意見を出しながら模索していく過程に意味があるのだと考える。そういった島民の強い意識は、観光が旅人の目に映える草花ではなく、島にしっかり根を下ろす大木になっていくのではないと考える。

アンケート結果

アンケートの調査対象は民宿関係者・レンタサイクル・有償バスなどの交通関係者・島民を対象としてアンケートを行った。アンケート内容としては、観光地化した竹富島に対する意識調査を行った。

まず、観光事業に従事している方々に行ったアンケートでは、観光客に対する不満や願い、要望があげられていた。

観光客に対する不満・要望・願い

- ・空き缶を灰皿にしてそのままにするのはやめてほしい。
- ・道で車がきているのになかなか避けてくれない。
- ・島に何を求めて来ているのかわからない。
- ・石垣積みの上にあき缶を捨てていく。
- ・高いお金をかけて来るのだから、もっと勉強してきてほしいし、勉強して帰ってほしい。
- ・忙しすぎる観光は地球を滅ぼす。
- ・観光地であるが、リゾート地という島ではないのに、水着のまま集落の中を歩くなど、島を理解していない行動をする観光客が増えてきている。
- ・はだかで歩くのはやめて
- ・過剰なサービスを要求しすぎ。
- ・自分が求めているものがなくただ来て帰るだけでは、本当の島の良さは伝わらない。
- ・モラル意識が低下している。
- ・航空券購入前に民宿の予約をとり、その後でキャンセルする人がいる。
- ・部落内での一部裸体の歩行はやめてほしい。(水着や上半身の着衣なしで歩くこと)
- ・リラックスして大いに楽しんでください。
- ・最近、日帰り観光が多くなっています。竹富の民宿に泊まれ、朝日や夕日、星空を見ながらゆったりとした観光になればいいと思います。
- ・島の集落は、人の生活している場であり、テーマパークではない。

以上のように観光客のマナーに対する不満・意見が多かった。しかしだからといって、

観光客が島を訪れることに関しては、観光事業に従事する方・島民を含めて賛成意見が圧倒的であった。

観光客が来ることに対する賛成意見

- ・安定した収入を得ることができるようになった。
- ・たくさんの人に島や島の生活を理解してもらえるようになった。
- ・竹富島の経済は観光が主流になっている。
- ・若い人に仕事がないので、観光バス・民宿での仕事が出来て良いと思う。
- ・島にうるおいをもたらす。
- ・島のピーアールにも良いと思っている。
- ・生活のため。(だけど、観光客が多すぎるのもダメ。
- ・竹富の人は外来者をもてなす性格ですから、観光業についています。職ができたことでUターン・Iターンが促進され地域づくりに役立っています。

上記の意見が出たが、やはり島の経済が大きく関わっているようである。また、一方では島の良さをもっと知ってほしいという島民の島に対する想いが感じられる。

次に観光客が集落を散策することに関しては、賛成が多かった。基本的に竹富島の人は外から来る者をもてなすこと自体は好きであるようである。

観光客が集落を散策することに関して賛成の意見

- ・管理上の問題
- ・舗装されていない白い道と赤がわらの家とさんごで積まれた石垣もみてほしい。
- ・海やその他の風景も見せることで島の素晴らしさをアピールできる。
- ・自由に歩いて散策しないとじっくり良さが見えない。 実際見ることで良さがわかる。
- ・町内を見学してほしいから。
- ・のんびり過ごしてほしいから。
- ・町並みの中をゆっくり島の文化や歴史に触れて島の良さをしっかりと見てほしい。
- ・会えば友達・泊まれば家族・こころのふるさと竹富島
- ・集落は出来るだけ散策し、町並みやシーサー、昔ながらの家などを見てほしい。
- ・観光客との出会いもでき、良く話し合いもし島のこと聞くので観光客の散策も良いと思う。
- ・島内観光には限度がある。島の面積からしても観光施設を分散し、観光客が散策することによって島の良さを再認識してもらうにももっとも有効だと思うから。
- ・島内を歩いているんなことを感じてほしいから。

観光客が集落を散策することに関して反対の意見

- ・散策する側も最低限のマナー（エチケット）を守って頂きたい。
- ・断りもなく草花や石を取ったり、庭に入って住居を覗き込んだりしなければいいのですが...

あと、環状道路の舗装については仕方ないという意味の賛成意見が多かった。住民の

暮らしの安全を考えると環状道路があることで、集落内の安全が保たれることと、どうしても集落を囲む形の環状道路は有償バスの問題や高齢者や障害者の観光には重要に関わってくる問題で、多くの観光客の受け皿となる竹富島の観光には必要であるものという意見がほとんどであった。

- ・集落内を車が走らないようにすることは、狭い集落内を安全に歩くことができてよい。
- ・現状では車観光も必要であり、出来る限り集落内走行をさけるためにも環状道路が必要である。しかがって頻繁に使用する環状道路は、舗装道路であることが望まれる。
- ・集落内が静かになった。
- ・道がいくらかきれいになった。
- ・島の観光がいつまでの続いていけるようにと思うから、みんなで話し合っって観光コースを決めて観光地を守りたいです。
- ・部落内でないから賛成
- ・反対できない。
- ・交通の便がよくなった。

それと、島民の方々に観光地化した竹富島の生活が、以前に比べて何が変わったか、大きく変わったことは、と言う質問では、

- ・観光地でなくとも変わっていくのは当然。竹富島の集落景観はいい方向に変わっていきます。(時々悪いのも)
- ・国指定の保存地区となり、観光客が増えることは自分たちの文化、環境に誇りを持つようになった。
- ・プライベートの生活が減った。
- ・昔は島人だけで思いやり、助け合いがあり(ゆいまーの誠心が良かった)
- ・観光地化されて自分さえ良ければどうでも良いように見る。
- ・食生活も変わり思いやりもない。
- ・道路・民宿・交通が大きく変わった。
- ・家畜は道路を汚して臭いので集落より 100m以上はなしてほしい。
- ・高齢者ばかりの島ではなくなった。
- ・島の人の意識。

その質問で、**観光地化する前の島が良かった**と思う人と思わない人の割合は半々で、観光地化する以前の島が良かったという意見には

- ・プライベートの生活がちゃんとあった。
- ・のんびりとした生活ができた。
- ・こんなに忙しすぎることはなかった。(しかし、観光もいい仕事ですよ)
- ・素朴な島で自然に恵まれて人間関係も良いし思いやりもあった。